



栃の子だより

平成 27 年 11 月 6 日

No.9

文責：寺島 寿一

あいさつ いのち うんどう・うたごえ えがお おもいやり

11月の校長講話より

今日は、「石田三成と大谷吉継」という二人の戦国武将のお話をします。まず、石田三成ですが、石田三成は、戦国時代に天下を治めた豊臣秀吉の家臣です。秀吉の死後、1600年に関ヶ原で徳川家康率いる東軍と戦った時の西軍の総大将でした。その関ヶ原の戦いでは、石田三成率いる西軍は敗れ去り、その後徳川幕府が成立しました。そのため、石田三成は、戦国武将として悪役のイメージが付きまっています。

しかし、そんな三成に次のようなエピソードが残っています。まず一つ目は、「三杯の茶(三献茶)」という話です。今の滋賀県・近江国の伊吹山に観音寺というお寺がありました。そこに、鷹狩帰りの豊臣秀吉が立ち寄りしました。秀吉は、1日鷹狩をやったので、のどが渇いていました。そこで、観音寺にいた石田三成にお茶を飲ませてほしいとリクエストしました。その時、三成は、「一杯目は大きめの茶碗にぬるめのお茶」「二杯目は一杯目より一回り小さいやや熱めのお茶」そして「三杯目はさらに小さい茶碗に熱いお茶」を出しました。どうして、このような順番で茶碗の大きさやお茶の温度を変えたか、わかりますか。

二つ目は、天正15年(1585年)大阪城で、豊臣秀吉が家臣を集めて、お茶会での出来事です。秀吉は家臣の団結を高めるため、茶碗に入ったお茶を一口ずつ回し飲みするようにしました。その家臣の中に、大谷吉継がいました。当時の吉継は、病(諸説あり)によって、顔を包帯で覆っていました。吉継は次の人が口をつけるのを嫌がるだろうと思って、飲むふりをして茶碗を回しました。しかし、吉継から後の者は、吉継の病気を恐れて、やはり飲むふりをして、その茶碗を次の人に渡していきました。

その茶碗が石田三成のところへやってきました。吉継や吉継の後の人の様子を見ていた三成でしたが、何事もなかったかのように普段と変わらず、そのお茶を飲み干しました。そしてさらに「あー、とってもおいしかった。もう一杯、お茶を注いでほしい」と言って、空になった茶碗に新しいお茶を注いでもらって次の人に渡しました。

その様子を見ていた大谷吉継は、三成の心遣いに感激しました。そして、どんなことがあっても石田三成についていこうと決意しました。関ヶ原の戦いの前には、負け戦になると三成を説得しましたが、豊臣家のために戦うという三成の強い気持ちをくみ取って、共に最後まで戦うことを選択しました。大谷吉継は、石田三成のために関ヶ原の戦いに臨み、そして戦死しました。

このお話から、今現在みなさんの生活にタイムスリップしてみましよう。みなさんは、ある友だちに対してこんなことはしていませんか。

「机や持ち物に触れることを避ける」「給食の配膳を避ける」「すれ違う時によける」…

一方、石田三成の振る舞い・行動はどうだったでしょうか。三杯の茶では、秀吉の喉の渇きを思いやり、茶碗の大きさやお茶の温度を変えて出しました。また、大阪城のお茶会では、吉継の心の痛みを思いやり、何事もなかったようにお茶を飲み干しました。

先ほど例を挙げた友だちに対する行為は、明らかに「いじめ」です。「いじめは、いけないことだ」ということは、みなさんよくわかっていると思います。でも、いじめはなくなりません。どうしてでしょうか。

ここで、「いじめ」と「盗み」について考えてみましょう。どちらが悪いと思いますか。やっぱり、どちらも悪いですね。それについて、比較してみます。

盗みは、友だちの「もの」を奪います。それは、窃盗罪にあたり、刑法 235 条により、10 年以下の懲役または 50 万円以下の罰金となります。

一方、いじめは、友だちの「笑顔」を奪います。笑顔を奪うだけなら、罪にならない？と思うでしょうか。そのいじめの行為が、友だちの持ち物を隠したり奪ったりしたら「窃盗罪」、友だちを脅せば「恐喝罪」、友だちを傷つければ「傷害罪」、友だちの持ち物を壊せば「器物破損罪」などの刑法上の罪になります。また、人権侵害や名誉毀損となります。

そしてなにより、いじめは、友だちの「命」をも奪ってしまいます。それだけ、いじめは罪が重いのです。

これから 3 つの人権ポスターの言葉を紹介します。どのように感じるか、聞いてください。

<p>人間</p> <p>人間はとても怖い生き物だ。</p> <p>人間はとても優しい生き物だ。</p> <p>わたしだつて人間だ。</p> <p>怖くて優しい人間だ。</p> <p>人間を傷つけるのは人間だ。</p> <p>人間を思いやるのも人間だ。</p> <p>著作権保護の関係から 写真の掲載はいたしません。</p>	<p>永遠</p> <p>学校に行く。</p> <p>あの人がいる教室に行く。</p> <p>こんなに辛いのに、なぜ？。</p> <p>親は知らない。先生には言えない。</p> <p>笑わない一日が、</p> <p>まるで永遠のように。</p> <p>著作権保護の関係から 写真の掲載はいたしません。</p>
--	--

人を傷つけて
笑っている人がいる
傷つけられて
必死に笑っている人もいる

いずれも、愛知県の人権ポスターの言葉です。

「人を傷つけて 笑っている人がいる」

「傷つけられて 必死に笑っている人もいる」

傷つけられて、本当は悲しくて、つらい思いをしながらも、笑わなければならない人の気持ちってわかりますか。先生は、とても心が痛いです。

みなさんには、本当に楽しくて、心から笑える友だち・楽しい学校であってほしいと願っています。

11月4日(水)より、新しい教育支援員として、富永有希先生が勤務しています。